

# 「生きる」こと、心で感じて 近藤さん絵画展、きょう5日開幕

2021/11/5 08:55

本県を拠点に活動する注目の若手作家・近藤亜樹さん（34）の絵画展「近藤亜樹一星、光る」が5日、山形市の山形美術館で開幕する。身近な光景や東日本大震災などを題材に、ダイナミックな構図と伸びやかなタッチで「生きる」ことを表現。近藤さんは「私たちはさまざまな生物や植物と共存し、たくさんの奇跡が重なって生きている。命は尊い。何も考えず、心で感じてほしい」と話した。

近藤さんは札幌市出身。2012年に東北芸術工科大学大学院を修了。学生時代に東日本大震災をモチーフにした「山の神様」が評価され、サンフランシスコの美術館に展示された。鶴岡市出身の精神科医・高橋龍太郎さんが収集した草間弥生さんや奈良美智さんらの作品と共に、現代アートの「高橋コレクション」に加えられた。昨年9月、山形に移住し自然に囲まれながら子育てと創作に励む。美術館では初の個展となる。

本展は、山形の生活で感じた草木の生命力などに触発され、今年5月から取り組んだ新作▽東日本大震災などを題材にした学生時代からの作品▽日常の幸せを表現した「ここにあるしあわせ」シリーズの3ブースで計48点を紹介する。個展タイトルにもなっている「星、光る」は縦227.3センチ、横545.4センチの大作。子どもを抱きかかえる母親が色鮮やかな花や鳥、果実に囲まれ、自然豊かな山形を表している。

近藤さんは「山形が大好き。初めて家庭菜園をして土に触れたり、鳥の鳴き声を聞いたり、季節の移り変わりに人間の一生を思ったり、自然から学んだことが作品にも影響している。震災直後の作品とはトーンが違うが、命の大切さを表現するのは変わらない。皆さんそれぞれの視点で見てほしい」と語った。

展示は23日まで。主催は山形美術館、山形新聞、山形放送、県。入館料は一般1200円、高校・学生800円、小中学生400円。問い合わせは山形美術館023（622）3090。



山形を描いた新作「星、光る」 ((C)Aki Kondo courtesy of ShugoArts)



美術館での初個展を前に、作品や山形への思いを語る近藤亜樹さん＝山形市・山形美術館